

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第10号

令和4年12月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

今年度、最後の通信となります。世界にはいろいろな人がいて、文化や考え方が違うのだから、それらを受け入れながら一緒に仕事をしたり、生活したりすることが必要であると言われていています。頭では理解できると思いますが、実際に行動できますか。

違うものを受け入れながら生きていくには、何が必要なのでしょうか。

日本人が知らない 世界標準の働き方 谷本真由美著 PHP研究所の中から紹介します。

ライフスタイルジョブという選択（その2）

ライフスタイルジョブという考え方は、英語圏ではかなり前から存在しています。その理由は、日本とは異なり、**個人主義**が徹底しているからです。

個人主義とは、個人個人が、自分の自立した考えを持って、自分でものごとを決定していくことを指します。アメリカやイギリスなどの個人主義を重視するアングロサクソン圏は、ローコンテクストカルチャーに属します。ローコンテクストカルチャーとは、他人を最初から考え方が異なる「異物」として捉える文化圏なので、**詳細をはっきり伝えないと、意思の疎通ができない、という社会**のことを指します。つまり、同じ血族、同じ会社、同じ学校に所属していても、ストレートなコミュニケーションが基本であり、「同じ所属であること」の意味が薄い文化だともいえます。

この文化圏では、所属するグループよりも、その人の考え方や技術が、その人を判断するツールとして重要視されます。したがって、その人が個人の意思で、どんなライフスタイルや仕事を選択しても、周囲はあれこれ介入してきません。つまり、**個人がハッピーになるのであれば、他人に迷惑をかけない限り、好きなライフスタイル、好きな仕事を選びなさい**、ということです。このような考え方は、アメリカやイギリス、カナダなどでは、**起業家精神が盛んであることと深い関係**があります。周囲が、その人に「社会的に従うべきライフスタイル」を押し付けないのであれば、新しい事業に挑戦したり、新しい製品の開発をしたりしやすいからです。起業家精神の養成とは、いくら学校で教育を施そうが、政府が補助金を出そうが、社会の構成員の考え方が変わらない限りは、盛んにならないのです。

一方で、日本やインドのようなハイコンテクストカルチャーは、その反対です。この文化圏では、**社会の基本単位は集団**です。ハイコンテクストカルチャーとは、同じ集団の中であれば、はっきりとものを言わなくても意思疎通が可能なことを指します。つまり、それだけ、

集団の中における個人の距離が近いのです。このような文化圏では、個人は、その人の考え方よりも、どこに所属するかで判断されます。したがって、周囲は、**その人がどんなライフスタイルを選ぶか、どんな仕事をするかに、必要以上に介入してきます**。ライフスタイルや仕事が変われば、その人の所属が変わってしまうからです。

リーマンショックでは、年に1000万～3000万以上稼いでいた中～高収入者が次々と解雇されました。アメリカと同じく、イギリスでも、リーマンショック後には多くの人が職を失いました。全世界的に非正規雇用の人の割合は増えており、安定した正社員のポジションはどんどん減っています。さらに、正社員とはいっても、今や正社員は簡単に解雇できる対象である国が少なくないために、**安定した雇用というのはいないに等しい**のです。

いつクビになるのかわからないのなら、誰かに雇われるよりも、自分で何かやろう、もしくは、自分が本当にやりたいことに取り組もう、と思う人が増えても不思議ではありません。

さらに、先進国では、お金だけあっても幸せになれるわけではない、と実感した人々が次々にお金を稼ぐためのラットレースから降りているというわけです。

日本でも若い人を中心に、ライフスタイルジョブを選ぶ人がいるようですが、日本人がまず認識すべきなのは、**安定した雇用というものはない**ということ、そして、大事なのは、**自分が幸せになるのは、自分が求めることに取り組むこと**であって、「周囲」が期待する役割を演じることではない、ということでしょう。今こそ日本人は、個人主義の本当の意味を理解しなければなりません。

「あなたは何がしたいのですか？」と聞かれたときに、何と答えますか。「〇〇をしたい」とすぐに答えられる人は少ないでしょう。では、「〇〇をしたい」というものを自分の心の中に生み出すには、どうしたらよいのでしょうか。

「社会の中で何が起きていて、どう変わっているのか」を肌で感じることです。社会の中の一員（**生きる当事者**）であることを実感することです。そう言われても、なかなか実感できていないのが現実ではないでしょうか。体験するもよし、新聞や本を読むもよし、ネットを活用するもよし、**いろんなことに興味・関心を持ち、感じる**ことです。そして、感じる心を豊かにしましょう。

そうすると、「〇〇してあげたい」「〇〇しなくてはいけない」「〇〇をすると人が喜ぶ」などの気持ちが生まれるはず。それを実現していきましょう。

人は、人と関わりたい・人を助けたい・人の笑顔を見たいなどの気持ちが自然にあり、人と一緒に過ごすことで幸せを感じるのです。自分のしたことで人が幸せを感じている姿を見れば、心が満たされて生きている喜びも感じるはず。心満たす経験を積んでいくことで人として成長し続けるのです。

多様性を受け入れる社会・平和な社会の実現には、**心を育てる**ことです。学校で学んでいるすべてのことが心を豊かにしているのです。**つばさ総合高校にはテストの点数が取れる生徒よりも心豊かな生徒に入学してもらいたいです。待っています！**